

令和2年度 第1回自立支援協議会定例会議（書面開催） 議事録

開催日：令和2年8月6日（木）

委員：出席28名、欠席1名

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、書面形式にて会議を開催しました。

1 協議事項

（1）内容

- ◆ 地域移行部会の精神ワーキンググループを、精神保健福祉連絡協議会（精神保健福祉活動を行う機関・団体で構成する協議会）の部会として位置付けます。
- ◆ 国が設置を求めている精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築のための協議の場について、それぞれ既存の会議体である精神保健福祉連絡協議会・精神保健福祉ネットワーク会議（精神保健活動を行う機関の実務担当で構成する会議）・精神保健福祉連絡協議会部会の3会議体から構成するものとします。

また、精神保健福祉連絡協議会部会は上記の地域移行部会精神ワーキンググループを兼ねることとします。

（2）結果

承認する：28名 承認しない：0名

（3）委員からの意見

- ◇ 若い頃、会社に入って2年後、精神障がいで1年間入院してから退院して復職しました。障がいをもつ前に比べて、仕事においても頭の働きが鈍ってしまいました。精神ワーキンググループでの検討は必要です。
- ◇ 精神保健福祉連絡協議会、精神保健福祉ネットワーク会議、地域移行部会が連携することによって、各会議体の役割の明確化、課題の共有化が図られると同時に各々の持つ特性がより効率的に活かされ、問題解決策の多様化につながると考えます。

2 議事

（1）委員紹介

《委員からの意見》

- ◇ 本校、花畑学園は令和2年4月に開校致しましたが、旧城北特別支援学校時に引き続き、地域に根差した学校として児童・生徒の支援にあたって参ります。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

(2) 令和 2 年度障害者福祉関連予算について

《委員からの意見》

- ◇ 基幹相談支援センターの設置・開設を迎えられるとのこと、ご尽力ありがとうございます。人員体制、休日、夜間、緊急対応、その他業務の内容等について、ご説明いただける機会を設けていただきますようお願いします。
- ◇ 「障がい者差別の解消」の部分で、主に講演会等に予算を充てていますが、今後、地域で様々な障がい者を包括していく方針が拡大されていく中で、予算額と施策内容が脆弱なように思います。調査で上位にあがっている「地域住民との交流」「学校や教育現場への関わり」など、地域住民に対して積極的に踏み込んでいく施策を期待します。受け入れ・共生する住民側の理解なくしては、包括ケアは絵に描いた餅になりかねないと考えます。
- ◇ 入所施設や入院から地域で暮らす方向で、グループホームの確保に力を注いでいることがよくわかりました。本校(墨田特別支援学校)の卒業生が西日暮里のグループホームにお世話になっております。地域で暮らすにあたり、18歳以降も放課後デイサービスのような活動場所のニーズは高いと考えます。高等部2年での就労継続支援B型のアセスメントはありがたく存じます。今年度は3～4名、就労継続支援B型の希望者がおりますので依頼することになります。よろしくお願い申し上げます。

(3) 各部会の元年度実績及び2年度活動予定等について

《委員からの意見》

- ◇ コロナ感染状況を考慮し、区担当職員の皆様は苦慮され、防止の上で資料作成等いただきありがとうございます。この不確定な状況で2年度の活動予定が実施できず遅れることを考えなければなりません。できることを取り上げて実施されることを希望します。各施設での自主製品販売についても、コロナ感染症の影響を大変受けて、販売減と聞いています。個人としては協力し、また地域の皆様の協力を広げていきたいと思います。
- ◇ 各部会の活動報告は特に興味深く拝見しました。
- ◇ これまでワーキンググループが取り組まれていた内容等は、今後も発表は良いので、情報だけでも自立支援協議会で共有していただきたいと思います。

(4) その他

《委員からの意見》

- ◇ 新型コロナ対応に保健所も多忙だと思いますが、保健と福祉の連携が重要ですので、保健所の担当者さんを明確にさせていただく必要があると思います。
- ◇ 協議会の開催が今後も難しくなるのであれば、会議の形態を見直す必要があるのではないのでしょうか。また、会議開催中に「皆さんも意見を」と求められることがありますが、なかなか言えない、または意見を整理する前に会議が終わってしまうことがあります。後に意見ができる機会があると良いかと思います。
- ◇ 早期にコロナ感染症が終息し、会議等が開催できればと思っています。

以上